

コープこうべ コミュニケーション レポート

2025

2024年度報告



コープこうべ
キャラクター
コーピー



co-op vision™

INDEX

ターゲット2030と「3つの柱」	2
生協・コープこうべについて	4
ターゲット2030 × SDGs	5
「3つの柱」の実現に向けた主な取り組み	
1 お買い物を通じた くらしの安心づくりをすすめます	6
2 いきいきとしたくらし、地域の つながりづくりをすすめます	10
3 環境や社会のためになる 活動・事業モデルを促進します	14

持続可能な経営基盤の確立に向けた構造改革	
宅配事業の基盤整備	18
店舗事業の構造改革	19
食品工場の思いを引き継いで 新たな学び合い・教え合い活動に向けて	20
コープ商品について	22
はかるたいせつプロジェクト	23
阪神・淡路大震災から30年	24
2025年はどんな年	26
8つの地区について	27

コミュニケーションレポートとは

組合員や地域の皆さんとのコミュニケーションが深まることを願い、作成したレポートです。
コープこうべの取り組みを「3つの柱」やSDGs(持続可能な開発目標)を基調に編集しています。

ターゲット
2030

ありたい未来
(まち くらし)

2030年に私たちは、どのように暮らしていたいか。
創立100周年を迎えた2021年に組合員、役員・職員の知恵と想いを寄せ合って策定した「ビジョン」。

コープのあるまち 協同のある暮らし

誰もが地域で安心して暮らせるように、未来の子どもたちが笑顔であふれるように

つながり

人と人がやさしさで
つながり、助け合える

健康

健康でいきいきとした
毎日を送れる

環境

自然環境と
共に生きる

あんしん

みんなが笑顔で、
安心できる

持続可能な
経営基盤の確立に
向け、構造改革を
すすめます

中期 経営計画

(2023年度～
2030年度の8年間)

前期

(2023年度～2026年度)

変革・礎を構築します

後期

(2027年度～2030年度)

発展・創造をめざします

3つの柱

「ありたい未来(まち くらし)」に向かう コープこうべの役割

2023年、ありたい未来に向かう道しるべ「中期経営計画」をスタート。
この中で、コープこうべの役割として「3つの柱」を掲げ、取り組んでいます。

1

お買い物を通じた
くらしの
安心づくりを
すすめます

→P06～09

2

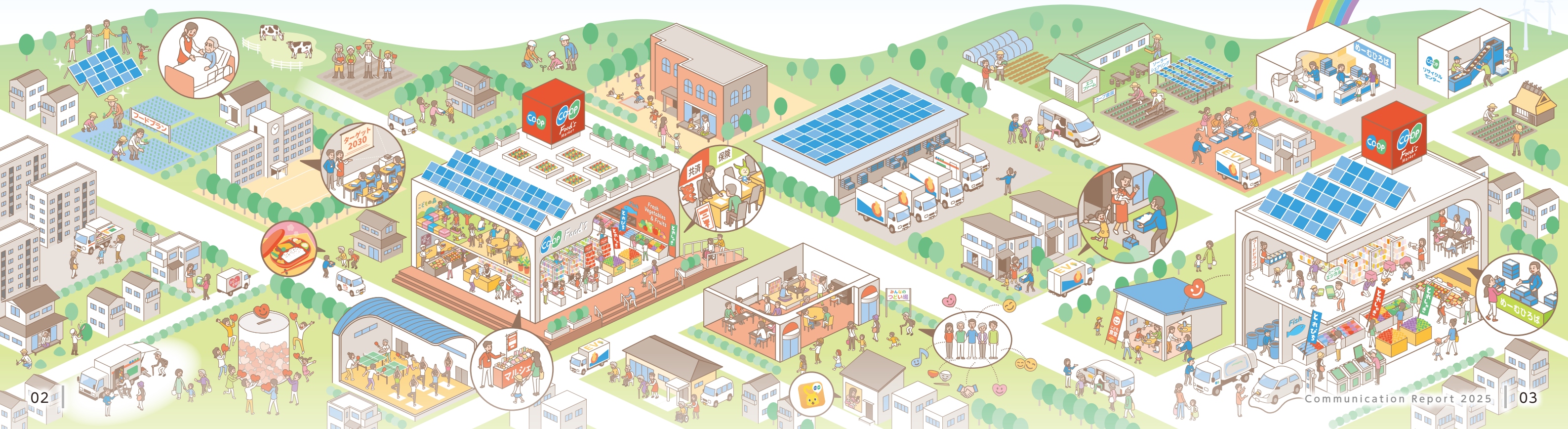
いきいきとした
くらし、地域の
つながりづくりを
すすめます

→P10～13

3

環境や社会の
ためになる活動・
事業モデルを
促進します

→P14～17



生協の仕組みとコープこうべの原点

生活協同組合について

生活協同組合（生協）は株式会社と異なり、一人ひとりがお金を出し合い、みんなで商品やサービスを利用し、活動や事業の運営に参加する組合員が主役の組織です。一人ではできないことも、みんなで助け合って夢や希望を形にし、より良い暮らしをめざしています。

組合員が
主役の組織
なんだね



出資

組合員、一人ひとりが
出資金を持ち寄り、
商品づくりや宅配・店舗の
運営など、あらゆる活動や
事業の大切な資金です。

利用

宅配や店舗での買い物、
さまざまなサービスを
みんなで利用することで
生協を大きく育て、
協同の輪を広げます。

運営

みんなの声を寄せ合って
商品の開発・改善、活動や
事業を行い、安心して暮らせる
豊かな地域づくりに
つなげます。

コープこうべについて

第一次世界大戦後の深刻な状況で、人々は苦しい生活を強いられていました。

その中で「確かな品質の商品を適正な価格で手に入れたい」という消費者の切実な願いを実現するため、1921年に2つの生協が誕生しました。

これがコープこうべの前身である「神戸購買組合」と「灘購買組合」です。

神戸購買組合



灘購買組合



コープこうべは1921年の創立以来、不安を安心に、そして困難を希望に変えるため、組合員と役員・職員が心と力を寄せ合い、「協同の力」でくらしの安心をつむいできました。私たちは創立の指導者である賀川豊彦の「愛と協同」の精神をいつの時代も揺らぐことなく受け継いでいます。



賀川豊彦

ターゲット 2030 × SDGs



コープこうべは、創立100周年の2021年に次の100年を見据えた2030年ビジョン「ターゲット2030」を策定しました。“誰一人取り残さない”社会の実現を掲げるSDGsの考え方に共鳴しつつ、2030年のありたい未来の実現に向け、取り組みをすすめています。

SDGs (持続可能な開発目標) とは…

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、“誰一人取り残さない”社会の実現に向けた、世界を変えるための17の目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」。

途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月に発効されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ターゲット2030 4つのテーマ	2030年のありたいまち、くらし ／みんなが(で)できること	対応する主なSDGs	共通する SDGs
つながり	人と人がやさしさで つながり、助け合える	貧困 1 貧困をなくそう 産業・技術 9 産業と技術革新の基盤をつくろう まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	パートナーシップ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
健康	健康でいきいきとした 毎日を送れる	飢餓 2 飢餓をゼロに 健康と福祉 3 すべての人に健康と福祉を まちづくり 11 住み続けられるまちづくりを 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任	
環境	自然環境と 共に生きる	水とトイレ 6 安全な水とトイレを世界中に エネルギー 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 生産・消費 12 つくる責任 つかう責任 気候変動 13 気候変動に具体的な対策を 海の豊かさ 14 海の豊かさを守ろう 陸の豊かさ 15 陸の豊かさを守ろう	
あんしん	みんなが笑顔で、 安心できる	教育 4 質の高い教育をみんなに 性平等 5 ジェンダー平等を実現しよう 成長・雇用 8 働きがいも経済成長も 人権・平等 10 人や国の不平等をなくそう 平和 16 平和と公正をすべての人に	

お買い物を通じたくらしの 安心づくりをすすめます

「週一宅配」を軸に、店舗やその他のサービスを
組み合わせることでお買物を支援し、
安心して暮らすことができる「まち 暮らし」



何の数字

9887食
夕食サポート「まいくる」の1日平均食数 (P06)



32台37店舗
「買い物行こカー」の運行状況 (P06)

9市
育児用品などの提供自治体数 (P07)

「宅配事業」から「買い物支援事業」への 変革をすすめています

週一宅配を軸に、さまざまなサービスを組み合わせた買い物支援をすすめています。第1段階として、買い物送迎車「買い物行こカー」は、全32台の車両管理を、店舗から協同購入センターへ移管。夕食の弁当を届ける夕食サポート「まいくる」は、お届けエリアを拡大するため、各協同購入センターに「まいくるセンター（配送拠点）」の開設をすすめ、全協同購入センターへ広がりました。組合員が利用しやすいサービスの提供やくらしの見守りにもつながっていきます。



「買い物行こカー」の車内で夕食サポート「まいくる」を紹介

行政や地域と協働で買い物支援に 取り組みました

4月に栄栗市および一般社団法人「波賀にこここマーケット」と「地域買い物支援『小さな拠点』協力に関する覚書」を締結。買い物困難地域のくらしを応援する新たな仕組みづくりとして、住民有志が運営するスーパー「波賀にこここマーケット」の商品調達に協力するとともに、「地域めーむひろば」を開始しました。



「波賀にこここマーケット」の店内

加古川市の見守りボランティアに参加

加古川市との包括連携協定に基づき、市内を配達する51人の宅配担当者が地域の見守りボランティアに協力しています。見守りが必要な小学生や高齢者が身に付けた電子タグに反応するよう、業務用端末に「みまもりアプリ」を搭載。検知した位置情報は、もしものときの探索に役立てられます。アプリを起動し、配達することで、地域の見守り役となっています。



宅配担当者が持つ業務用端末で「みまもりアプリ」を起動

行政と連携し子育てを応援

神戸市との「子育てしやすい環境づくりに向けた連携協定」に基づき、コープこうべが提供する育児用品を子育て世帯に配布する取り組みが4月からスタートしました。5月から高砂市、6月から西脇市、10月には芦屋市でも同様の取り組みを開始。地域と共に子育て世帯を応援する取り組みは9市に広がりました。



芦屋市との取り組みを開始



育児用品を受け取る様子

「めーむひろば」の利用者を 増やしました

宅配、店舗の職員が連携し、店舗を利用する組合員に宅配サービスや宅配カタログ『めーむ』の魅力を伝える「めーむひろばフェア」を開催しました。3025人の申し込みを受け付け、約1万9000人の組合員が店舗で「めーむひろば」を利用しています。



コープの店内で「めーむひろば」を紹介

1 お買物を通じたくらしの
安心づくりをすすめます

2 いきいきとしたくらし、地域の
つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・
事業モデルを促進します

コープ伊丹がリニューアルオープン

8月、約3年半ぶりに建て替えオープンしたコープ伊丹は、コープ商品の割合を約40%に高めるとともに店内加工の総菜を品ぞろえしました。

また、つどい場「COCOROBA」を店内に開設し、地域コープ委員会やコープサークルが中心となり、「福祉」をテーマとした活動を開始。地域に根差した店舗づくりをすすめています。



店内に開設したつどい場「COCOROBA」



建て替えオープンしたコープ伊丹

組合員ニーズや地域性に配慮した品ぞろえ・売り場づくりに

より買いやすく、食卓をイメージしやすい売り場のモデル店舗として、コープ神吉、コープ西宮東を改装オープンしました。用途別に陳列を見直し、関連商品を近くに配置するなど、豊かな食卓、メニュー提案型の売り場づくりをすすめています。



関連商品を近くに配置

オリジナル商品のブランドをリニューアルしました

コープこうべのオリジナル商品であることが分かりやすくなるよう、ブランド名とロゴマークを変更しました。

リニューアルから1年が経過し、商品パッケージを順次変更。宅配カタログ『めーむ』や店舗の売り場など、さまざまな広報媒体で「コープこうべ商品」の認知度向上に取り組んでいます。



宅配カタログ『めーむ』で紹介



店内で新しくなった商品ブランド「コープこうべ商品」をPR

保障を通じたくらしの安心づくりをすすめています

子会社の㈱コープエイシスと連携し、コープ共済と団体保険を組み合わせ、組合員一人ひとりのニーズに合わせた保障の提案に取り組みました。

また、健康測定器を使ったイベントを店舗の共済相談コーナーで開催し、組合員の健康づくりをサポートしています。



店内で共済や保険の紹介を受ける組合員

地域の福祉車両を活用した買い物送迎サービスが開始

コープデイズ豊岡では8月、豊岡市社会福祉協議会と協働で買い物送迎が始まりました。地域の福祉団体の車両の空き時間を活用し、買い物に困難を抱えている高齢者などを対象にサービスを提供しています。

日常の買い物機会の提供と地域における見守りにつながっています。



福祉車両で来店する組合員

行政・地域団体と協働で移動店舗を開始しました

6月、三木市と結んだ包括連携協定をもとに、買い物困難者支援の取り組みとして、移動店舗を市内10カ所で本格的に開始。地域団体の皆さんがボランティアで、高齢者の買い物補助やサービスを広報するなどの支援に協力しています。移動店舗サービスを通じて、買い物支援や見守りに地域ぐるみで取り組んでいます。



地域の団体が制作・配布したチラシ



三木市内で移動店舗を利用する組合員

宅配カタログ『めーむ』で「阪神・淡路大震災30年特別号」を発行

2025年1月、阪神・淡路大震災から30年を機に、「みんなで備える防災」をテーマとした特別号を企画・発行しました。

協同購入センター東神戸の新入職員6人が防災関連商品を利用・体験しながら紹介し、防災への意識を高めるきっかけになるような紙面づくりにチャレンジ。

また、ローリングストックにおすすめの商品を紹介するWebページも新設しました。→



宅配カタログ『めーむ』の特別号で防災グッズを紹介

「備える」ことの大切さを伝えています

店舗ではローリングストック商品の売り場を充実させ、「備える」ことの大切さを伝えています。

また、災害時の食に関する問題を考えるハンドブック『食の備えBOSAIブック』を作成。→食料備蓄の知識やポリ袋調理のレシピなどを分かりやすく伝えています。



店内でローリングストック商品を紹介

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます、地域の

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

いきいきとした暮らし、地域の つながりづくりをすすめます

地域課題の解決に向けて、地域でのつながりや協働が
広がり、地域の団体・個人がそれぞれの力を発揮し、
いきいきと活躍できる「まち 暮らし」



何の数字

32カ所
つどい場の数 (P11)



3441人 (2024年度)
地域つながるミーティング参加者 (P10)

11市2町2団体
行政や地域団体との包括連携協定 (P12)

地域との対話の出発点 「地域つながるミーティング」をすすめています

2022年2月からスタートした「地域つながるミーティング」は、総代や地域コープ委員、サークル活動を行う組合員だけでなく、行政や社会福祉協議会、NPOなどの団体、地域で活動する個人やグループが参加し、対話を通じて人や組織がつながる場です。2024年度は、延べ3441人が参加。地域の課題について話し合い、各々の強みを生かし、課題解決につなげています。より良い地域づくりをめざし、さまざまな活動が生まれるきっかけとなっています。



地域の課題について話す組合員や地域の活動者



地域の居場所を増やしています

つどい場は、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな用途で活用する地域の拠点。地域をより良くする新しい取り組みが始まることもあり、たくさんのパワーが詰まった場所です。コープこうべは、誰もがいきいきと暮らせるよう、地域の皆さんと共につどい場づくりをすすめており、32カ所に広がりました。



みんなほくほく つどい場ばんぶー (西宮市)



営業終了したコープ東加古川の隣接地にオープンした東加古川コープのつどい場「虹」

行政や地域と連携した居場所づくり

神戸市西区役所移転後に空いた玉津庁舎の1階・4階に、コープこうべが神戸市から運営を受託する地域のつどい場「たまろっと」が誕生しました。さまざまな個人・団体と共に、幅広い世代が集う地域の交流拠点づくりを開始。6月にオープン記念イベントが開かれ、約3000人でにぎわいました。



寄贈本を中心としたライブラリー (4階)



玉津のつどい場「たまろっと」オープンの様子

子ども食堂の活動が 広がっています

コロナ禍で休止または弁当のお渡しをしていた子ども食堂やコミュニティー食堂は再開し、各地で活動が増えています。新たな子ども食堂が立ち上がるなど、子どもの居場所づくりの取り組みが前進しました。48の子ども(コミュニティー)食堂がコープサークルに登録し、活動しています。



店舗の組合員集会室を利用した子ども食堂(コープ鈴蘭台東)

住まいの確保が困難な方を 応援しています

困難な状況にある女性と子どもを支援する「女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ」、学生・留学生をサポートする「神戸学生青年センター」がすすめるプロジェクトに協力しています。コープこうべの旧女子寮を、住まいの確保が困難な女性向け共同住宅に転換した「六甲ウィメンズハウス」が完成しました。キッズスペースやコミュニティーカフェ、学習室なども設置。今後も食材提供などの支援を続けていきます。



6月にオープンした「六甲ウィメンズハウス」

1 お買い物を通じた暮らしの
安心づくりをすすめます

2 いきいきとした暮らし、地域の
つながりづくりをすすめます

3 環境や社会のためになる活動・
事業モデルを促進します

行政や団体と協定を結び 連携を強めています

4月に宍粟市、6月に三木市、2025年3月に三田市と包括連携協定を締結。包括連携協定の締結先は、11市2町2団体となりました。

くらしの課題は地域ごとに異なるため、行政や団体と包括的な連携を図り、これからもくらしの応援や地域の活性化、持続可能な社会の実現をめざし、地域との連携を図っていきます。



三木市との協定締結式の様子

参加の輪が広がっています

コピーポイントで募金ができる機能を、6月からコープこうべアプリの「コープ TOUCH」に追加しました。

これまで、コープこうべの奨学金や平和のカンパ、大船渡山林火災などの募金を呼び掛け、延べ1万57人が参加し、約200万円の善意が寄せられました。



コープこうべアプリに「ポイント募金」の機能を追加

若者とのつながりが広がりました

未来をつくる若者の応援を続けています。社会体験の機会として平和の旅を開催。被爆地の広島と長崎の戦争遺構を巡り、戦争について学ぶとともに、新聞づくりを実施。

また、震災を経験していない世代が被災地を巡るバス研修を計画するなど、コープこうべの活動を通じて若者同士のつながりづくりをすすめています。



野島断層保存館(淡路市)を見学



被爆地の広島市内を自転車で巡る中学生・高校生

生徒の学びの応援を続けています

2021年にスタートした「コープこうべの奨学金『てとて』」は4年目を迎え、11月には新たに88人が奨学生となりました。日々学業に励む奨学生に卒業までの期間、月額1万円を給付しています。2025年3月末現在の奨学生247人のうち、79人が高校などを卒業し、新たな道を歩み始めました。

また、奨学生同士のつながりづくりや社会体験などの機会をつくり、次世代を担う地域の若者が元気に学んでいけるようサポートしています。



奨学金の募金を呼び掛けるポスター

新たな学び合い・教え合い活動に向けて

コープカルチャー事業所の跡地で貸室運営を行う「ふれあいひろば(コレル)」は、新たに「コレル西宮」が稼働し、7カ所になりました。

「ふれあいひろば(コレル)」や「つどい場」は、学び合い・教え合いの活動を継承し、新たなコミュニティとなっています。



8月にオープンしたふれあいひろば「コレル西宮」

助け合いの輪を広げています

大阪北地区の助け合い制度「コープむつみ会」は活動開始から40周年を迎えました。これまでの活動を振り返るとともに、会への思いを寄せた記念誌を発行。今後も心をつなぐ、会の発展に取り組みます。

また、兵庫県内の「コープくらしの助け合いの会」は、活動を広げるために説明会やカフェを開催。第1地区では、活動会員とコーディネーターがコープサークルを立ち上げ、「ふれあいカフェ」を開始。地域で活躍する「まちの看護師さん」に健康相談もできる居場所になっています。



40周年記念誌



西田紀子理事(前列中央)とコープむつみ会のコーディネーターの皆さん

食を通じたつながりが広がりました

第6地区では、兵庫県立明石南高等学校調理部とクッキングサポーターが協力し、若者の食の課題でもある「朝食」をテーマに健康づくりに取り組みました。朝食に関する実態を把握するため、校内でアンケートを実施。508人からの回答をもとに、栄養バランスがよく、手軽な朝食のレシピづくりや試食を行いました。これからも共に、食を通じた健康づくりをすすめていきます。



明石南高等学校調理部とクッキングサポーターの皆さん

学生や地域と協働で 健康づくりに取り組みました

第3地区では、甲南女子大学と地域包括支援センター、コープ岡本が連携し「おかもとサロン」を開催。学習と体操を織り交ぜて、フレイル予防の機会づくりに取り組みました。

他にも公益社団法人兵庫県栄養士会と連携し、「食」と「フレイル予防」を掛け合わせた啓発イベントをコープ甲南、コープ北鈴蘭台、コープめふで新たに実施しました。



甲南女子大学の学生らが企画したフレイル予防体操の様子

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます、地域のいきいきとしたくらしを

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

環境や社会のためになる 活動・事業モデルを促進します

SDGsの考え方を大切に、これまですすめてきた
環境活動や社会貢献を組合員、地域と共に更に
発展させ、ますます参加の輪が広がる「まち くらし」

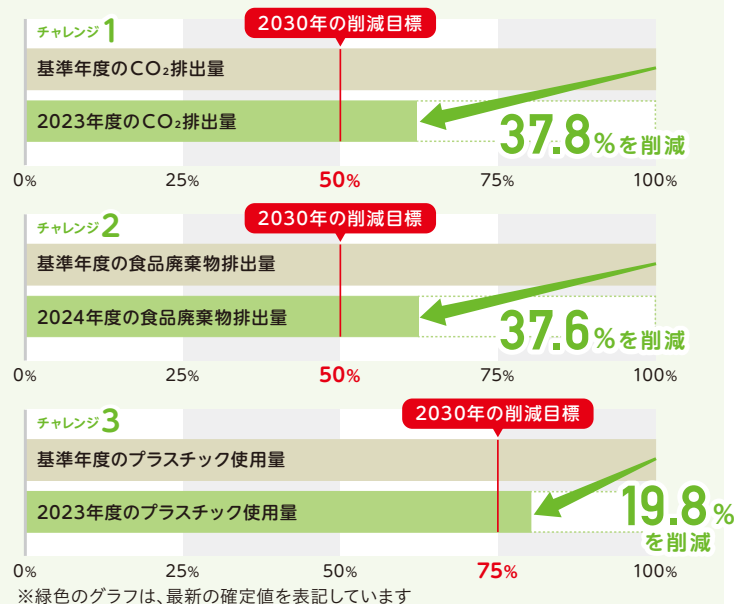


現在の到達点

環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

2030年に向けた環境チャレンジ目標を2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

- チャレンジ1** 事業活動におけるCO₂排出量を半減！
2050年度には、排出量実質ゼロをめざす！
- チャレンジ2** 事業活動における食品廃棄物を半減！
- チャレンジ3** 事業活動におけるプラスチック使用量を25%削減！
- チャレンジ4** 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！
- チャレンジ5** 組合員とともにエシカル消費を拡大！



誰もが働きやすい 職場づくりをすすめています

店舗や協同購入センターで約180人の障がいのある職員が活躍しています。7月から多様な職員が働いていることを伝えるポスター「ともににはたらく」を店舗などに掲示して組合員の皆さんにもお知らせし、多様な職員の活躍と働きやすさを支援しています。



障がいのある皆さんが店舗や協同購入センターで活躍しています



防災をテーマに フォーラムを開催しました

阪神・淡路大震災から30年の節目を前にした9月、地域のつながりを起点に防災を考える「地域つながるフォーラム2024」を開催。防災に関するクイズやワークショップ、防災食の試食・販売、災害・避難体験などさまざまなブースが出演。

また、地域の防災活動に取り組む専門家・活動団体が講演・事例報告を行い、167人が参加しました。参加者から「防災を多角的に見直して、自分の活動に生かすヒントが見つかった」などの感想が寄せられました。



ポリ袋を利用した防災カレーづくり

紙を通した資源循環を学ぶ機器を 設置しました

SDGsを学ぶ拠点として開設した玉津のつどい場「たまるつと」に、紙リサイクル機器「玉津ラボ」(愛称)を設置しました。使用済みの紙から、新しい紙をその場で作り出す小さな製紙工場のような機器で、環境学習のツールとしても活用。また、リサイクルの工程に、阪神友愛食品(株)や地域の福祉作業所が関わることで、障がい者雇用を促進しています。今後は、地域で使用された紙資源の再生・活用もめざしていきます。



「玉津ラボ」の前で使用済みの紙を整理する福祉作業所の皆さん

「コープこうべ環境基金」の 助成を受けた活動が受賞

生物多様性の保全、希少種・在来種復元、再生可能エネルギー普及などに関する活動を行う39団体に、「コープこうべ環境基金」から総額1000万円を助成しました。

助成を受けた兵庫県立明石北高等学校 科学探究部生物班は、11月の「兵庫県高等学校総合文化祭(自然科学部門生物分野)」で「ネビキグサ(明石市の絶滅危惧種・レッドリストAランク)」の研究を発表し、最優秀賞(第1位)を受賞。これをきっかけに学校関係の団体から助成金申請が増加しました。



最優秀賞を受賞した
明石北高等学校科学探究部生物班の生徒の皆さんと先生

CO₂排出量削減の 取り組みをすすめています

兵庫県の脱炭素アクション「ひょうご1.5℃ライフスタイルコンソーシアム」に参画しました。その企画の一つとして、10月から個人の脱炭素行動変容を促進する取り組み「脱炭素エキデンひょうご」に参加。参加者のマイボトルの使用やフードドライブの取り組みなどによるCO₂削減量を専用アプリ「SPOBY」で“見える化”し、意識・行動変容を促しています。参加した組合員・職員57人の脱炭素行動により、10月～3月の6カ月で「199.9kg」のCO₂削減に貢献しました(約23本分のスギの二酸化炭素吸収量に相当)。



日々の脱炭素量を計測できるエコライフアプリ「SPOBY」

食品廃棄物削減の取り組みを広げています

店舗から出る食品残さのリサイクルは、^{たいひ}堆肥化業務を外部に委託し、新たに日配商品の廃棄品の回収を開始。年間約700tの食品残さなどを回収し、リサイクルしました。また、新たな取り組みとして、「消滅型生ごみ処理機」をコープデイズ豊岡、コープデイズ相生、コープ姫路田寺、コープ龍野に導入。該当の店舗から出る約8割の生ごみを処理し、更なる食品廃棄物の削減につなげています。



店舗から出る食品廃棄物の回収をする様子

就労支援の場を提供しています

障がい者支援団体と連携し、「めーむひろば」の仕組みを活用した就労体験を8カ所で開催。働くきっかけの場を提供しています。コープ龍野では、就労体験をした方がコープこうべに就職しました。障がいの有無にかかわらず誰もが活躍でき、お互いを認め合う優しさがある社会になるよう取り組んでいます。



コープ龍野の職員

「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」をすすめています

2013年から兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県と共に取り組んできた「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」。10年の節目に「とれびちフェスタ」を明石浦漁業協同組合で開催し、子育て世代を中心に1200人が参加。「兵庫の海」や、漁業について学ぶ機会となりました。今後も地元の魚の食文化継承や豊かな海づくりをめざし、店頭での普及活動、産地見学や学習会などをすすめていきます。



「めーむひろば」の受け渡しをする福祉作業所の皆さん
(コープ姫路田寺)



遊びながら海の資源について学ぶ子どもたち

「みんなの牧♥里プロジェクト」は10周年を迎えます

大阪府豊能町牧地区では、地元の農家、大阪府、豊能町、コープこうべの4者が協働して放置された農地・竹林を再生する「みんなの牧♥里プロジェクト」を実施中。里山の保全活動や農業体験を通じ、地域の活性化をすすめています。

プロジェクトの10周年記念イベントに200人が参加しました。

これからも自然の恵みを感じながら農業やくらしについての学びを深めていきます。



「みんなの牧♥里プロジェクト」が始まった2015年12月のキックオフイベントに参加した皆さん

被災地の応援を続けています

6月、能登半島地震の緊急募金の一部を活用し、兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザと協働で、災害ボランティアバスを運行。組合員・職員ら延べ47人が被災地で支援を行いました。また、9月に発生した能登半島豪雨災害の緊急募金を10月～12月に実施。寄せられた約416万円の募金を活用し、コープ商品の野菜スープと味のりを応援メッセージと併せて、コープいしかわの組合員に届けました。



コープいしかわに届けた商品とメッセージ



被災地支援を行う組合員・職員

生協の理念継承に取り組んでいます

地域や組合員とつながり、生協らしさを感じた協同の体験を、職員同士で共有する取り組みを実施。2024年度のテーマは、「震災体験と備えるを語り継ぐ」。岩山利久組合長理事から地区本部長への発信に始まり、地区本部長から所属長へ、所属長から各所属の職員へと語り継ぎを実施。30年前の震災に思いをはせ、生協の理念やこれからの「備え」について考える機会となりました。



阪神・淡路大震災の経験から今後の「備える」について考える職員

組合員とコープこうべの「ええやん」を広めています

コープ商品の良さを、より多くの方に知ってもらおうと、SNSを活用した広報を強化しています。12月にアンバサダーを募り10人の組合員が就任。約半年間、コープ商品のおすすめポイントやレシピを組合員自身のInstagramで投稿していただきました。投稿をきっかけに「商品を試してみた」や「宅配を始めた」という声も届き、第2期アンバサダーの募集も検討しています。



組合員アンバサダーの皆さんがInstagramに投稿した画像「#コープこうべアンバサダー」

デジタルツールの活用をすすめています

コープこうべアプリの利便性を伝えるとともに、アプリを通じたコミュニケーションを広げています。店舗では、アプリ登録の相談会を開催し、デジタルの活用をすすめています。



店内でコープこうべアプリの説明を受ける組合員

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます、地域のいきいきとしたくらしを

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

持続可能な経営基盤の確立に向けた 構造改革



宅配事業の基盤整備

夏季一斉休業期間を設けました

協同購入センターでは2024年度、初めての取り組みとして8月13日～17日の5日間を一斉休業としました。職員の働き方改革の一環として、前後の日・月曜日を合わせ9日間の連休を取得。

組合員の皆さんにはできるだけ迷惑がかからないよう、事前にチラシなどで告知。宅配カタログ『めーむ』7月1回～3回の「夏フェス」企画などで休業前の商品購入をおすすめしました。



宅配職員のコミュニケーションタイム(協同購入センター伊丹)



店舗事業の構造改革

「2024年度営業終了候補店」について 今後の方向性を決定しました

厳しい経営状況が続く3つの店舗(コープ箕面中央、コープ長田、コープ加西)を「営業終了候補店」とし、組合員と共に業績改善に取り組みました。コープ長田は営業を継続、コープ箕面中央とコープ加西は将来の改善が見通せず、やむなく終了が決まりました。

また、2025年度は7つの店舗を「営業終了候補店」に選定し、業績改善に取り組んでいきます。



コープ加西の営業終了の様子(2025年3月)

豊かな食卓をイメージしやすい 売り場づくりをめざして



メニュー提案型売り場のモデル店舗として、9月にコープ神吉、10月にコープ西宮東を改装オープン。フレッシュフルーツを使った店内加工のスイーツを始め、パーティーメニューや洋風総菜に力を入れ、季節を感じられる売り場をめざしています。2店舗での好事例は、他店舗にも展開していきます。



店舗システム刷新で 業務改革とサービス向上へ

店舗事業では、30年以上使い続けてきた店舗システムを2025年に入れ替えを予定しており、準備をすすめました。

システム刷新を機に、働き方や業務スタイルを変え効率化を図るとともに、売り場に居ながらできる業務を増やし、組合員サービスの向上につなげていきます。



売り場でも操作できる業務ツールに変更予定

デジタルツールの活用を すすめています

より便利になったコープこうべアプリの利用を推進しています。また、アプリでデジタル版地域担当ニュースを配信し、訪問する組合員とのコミュニケーションを始めています。



「あんしん宅配」に 取り組んでいます

トラックの走行や駐車に関して、地域の皆さんから信頼され、誰もが安心感を得られるような運転を心掛けています。職員一人ひとりへの安全意識の浸透を図るための研修を行い、組織一丸となって取り組んでいます。





食品工場の思いを引き継いで

コープこうべ直営の六甲アイランド食品工場は、2025年3月22日をもって約37年の歴史に幕を下ろしました。長きにわたり、食品工場製造のオリジナル商品をご利用、ご愛顧いただきありがとうございました。



これまで工場で培ってきた「安全・安心」「おいしさ」へのこだわりや、組合員の声・思いを生かした商品づくりは今後、日本生活協同組合連合会との共同開発でしっかりと継承していきます。



42品目が日本生協連コープ商品に

9月には「神戸ハイカラメロンパン」の製造をメーカーに委託し、発売から72年の思いをつないでいます。10月には「しっとり絹あつあげ」、2025年3月には「なめらか絹豆腐」「うすあげ」「熟成ロイヤル」など、これまでに合計42品目が、日本生協連コープ商品としてデビュー。食品工場生産品のこだわりを継承しています。



メロンパンの焼き型譲渡式(8月)



新たな学び合い・教え合い活動に向けて

コープカルチャー事業は2025年3月末をもって終了しました。長きにわたりご利用いただき、ありがとうございました。



事業としては終了しますが、自主運営による学び合い・教え合い活動を続けるとともに、コミュニティを維持し、再出発します。

カルチャー事業所の跡地を活用して

カルチャー事業所の跡地を活用し、新たな学びや活動交流の拠点「ふれあいひろば(コレル)」やつどい場を開設しています。「ふれあいひろば(コレル)」は現在7カ所に広がり、これまでのコープカルチャー講座の一部は、自主運営で活動を継続しています。



コープ商品について

コープこうべのオリジナル商品であることが分かりやすく、見つけやすくなるよう、2024年4月からブランド名とロゴマークを変更しました。

リニューアルから1年が経過し、商品パッケージを順次、変更しています。これからも安全で確かな品質を大切にするコープ商品をご利用いただくことにより、組合員、生産者、みんなの笑顔につなげていきます。



みんなの意見をもとにより伝わるブランド名とロゴマークに



コープス

コープこうべ商品

「KOBE」の文字を入れ、コープこうべオリジナル商品だと分かるデザインに。「みんなの想いをつなげて」商品づくりをしていることを表現。ブランド名も「コープこうべ商品」に変わりました。



コープス
フードプラン

コープこうべフードプラン

「フードプラン」のマークは「コープこうべ商品」のロゴマークと一体化したデザインに。標語には、産地とともに持続可能な食べものづくりに取り組む思いを込めています。

「コープこうべ商品」のロゴマークは、
2万2000票を超える組合員の投票で決定

このマークは
どうなるの？



マークの使用は終了し、
商品は「コープこうべ商品」
として継続します。



コープ商品に限らず
幅広く使用していきます。



2つのコープ商品の力を合わせて

「コープこうべ商品」と、全国の生協の組合員の声をもとに開発している「日本生協連コープ商品」の2つのコープ商品の強みを生かし、組合員の力を合わせて、くらしに貢献していきます。



コープこうべ商品



日本生協連コープ商品

大切にしたい5つのこと

組合員と生産者がつながって、思いをかたちにし、育てていく。みんなが安心し、笑顔になれる。これがコープ商品です。

組合員の声に
寄り添って

安全と安心を
大切に

確かな品質と
利用しやすい
価格で

持続可能な
社会やくらしの
ために

生産者・
組合員・職員が
つながり、
みんなで育てる

はかるたいせつPROJECT

～「健康でいきいきとした毎日」はみんなの想い～



食の安全や健康づくりに取り組んでいます

「はかるたいせつプロジェクト」は、商品検査センター開設50周年の2017年にスタート。
商品はもちろん、一人ひとりの食習慣などを「はかる(計る、測る、量る)」ことで、
“健康づくり”のきっかけとなるよう取り組みをすすめています。



はかるたいせつプロジェクト 検索

たべるをはかる

東京大学の佐々木敏先生^{ささき とし}考案の「BDHQ食習慣調査票」を活用した学習会を開催。食習慣を見直すきっかけとなっています。



10月の「商品検査の日 つどい」では、「健康食品と食のリスクコミュニケーション」をテーマに学習会を開催。健康食品だけに頼らず、バランスの良い食事をとることの大切さをお知らせしました。また、ラジオ関西の番組内でコープこうべの情報をお知らせする『コープ・スコープ!』や、ラジオ関西Webメディア『ラジトピ』でも食品安全に関する情報を発信中です。



カラダをはかる

感染症予防や食中毒予防の基本は手洗い。手の汚れを調べる測定器を使った体験を通して、正しい手洗い手順の普及活動を行っています。



加齢により心身の活力が低下した状態「フレイル」。オンラインアンケートや学習会を開催し、フレイル予防を伝えています。



はかるをひろめる

店舗の共済相談会で、健康測定を実施。健康への関心を高めてもらうとともに、健康状態やライフステージに合わせた保障の提案を行っています。



まるごと健康チャレンジ



兵庫県内、大阪府内の生協の仲間と共に「まるごと健康チャレンジ」を実施。自分が選んだ健康づくりのプログラムを継続できるようサポートしました。



商品検査センターは2024年度、3520件の商品検査及び2811件のお申し出調査を行いました。詳細は広報誌『Hakaru(はかる)』をご覧ください。



阪神・淡路大震災から30年

1995年1月17日、十数秒の激震により、街は押しつぶされ、心には癒やしきれない傷が残り、私たちのくらしは大きく変わりました。

このような状況の中でも、私たちは決してあきらめず、前を向いて歩んできました。そこにはみんなで助け合い、被災した方々に寄り添い、支え合う優しさがあり、本当に大切なものを改めて知ることができました。

これからも私たちは、「愛と協同」の心を大切に、共に備え未来へつないでいきます。



生協がつなぐ支援

震災直後から、多くの地域コープ委員やコープサークルの皆さんによる募金活動、被災地に出向いての炊き出しが行われました。また、多くの生協の間が緊急物資をトラックに積み、神戸入りしました。

3月までに全国から駆け付けてくれた生協職員は、85生協・延べ1万人を超え、物資の輸送、店舗の復旧、商品の供給、食品工場の作業などで応援をいただきました。

これらの被災地支援の状況から、「被災地に生協あり」と社会的な評価も高まりました。



継承していくことを大切に



現在、私たちの街は震災の痕跡を探すことが困難なほど復興し、震災を経験していない世代が増えています。震災の記憶を風化させず、鎮魂の気持ちとともに、被災から得た経験や知識、防災への思いを継承することを大切に取り組んでいます。



震災特設サイトを開設

30年の節目の年を迎え、これまで行ってきた、『震災を次世代に継承する取り組み』を振り返り、今後の備えについて考える震災特設サイト「共に備える 未来へつなぐ」を開設しました。ローリングストックや各地のイベント情報などもこちらで発信しています。



組合員の皆さんに「備える」についてアンケートを実施

「備える」に関するアンケートや「ローリングストック」の認知度、実施状況に関する投票を行い、多くの大切な声をいただきました。「備える」一歩を踏み出していきます。

これから何を備えますか？	人数		人数
電源（バッテリーなど）	4063	ハザードマップの確認	2123
家族との連絡手段の確認	3763	飲料（水、ジュース類）	2029
トイレ（簡易トイレ）	3335	情報機器（ラジオ）	1969
緊急持ち出し袋	3288	調理器具（カセットコンロ）	1708
暖をとる（カイロ、ストーブ）	2892	あかり（ヘッドライト・ろうそく）	1589
食料（インスタント・缶詰）	2705	近所とのつきあい	1225
家具の固定	2545	ない	393
避難所・集合場所の確認	2446		



震災30年を考えるワーキンググループが活動

震災の記憶を語り継ぐとともに防災の意識を高めようと、震災30年を考えるワーキンググループを発足。各地区から組合員有志23人が集まりました。2025年1月は命を守る備えを身に付ける防災学習会「ふだんのくらしに防災を！」を開催し、62人が参加。2月に開催した「みんなで楽しむ防災フェスタ」には、約160人が参加しました。防災に取り組む9グループが活動を紹介し交流。また、落語家の桂吉弥さんが震災当時に混乱の中で落語を楽しんでもらったエピソードなどを語りました。



2025年はどんな年

2025年国際協同組合年 (IYC2025)

国連は、さまざまな分野で持続可能な開発目標(SDGs)に貢献している協同組合を評価し、その認知の向上と協同組合の振興のために、2025年を2012年に続き2回目の国際協同組合年に決めました。

コープこうべは、協同組合同士のつながりを大切に、SDGsの達成に向けた取り組みをすすめ、助け合い、支え合い、優しさがあふれる地域社会をめざしていきます。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



終戦80年

平和の尊さを再認識するため、歴史を学び、日々の暮らしの中から平和を見つめる取り組みをすすめています。過去の過ちを繰り返すことなく、平和な未来を確かなものとするために、平和の尊さを次世代に語り継いでいきます。

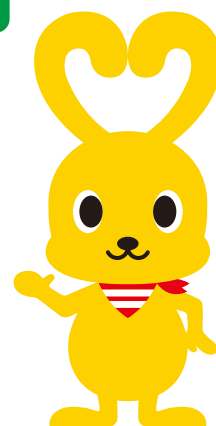
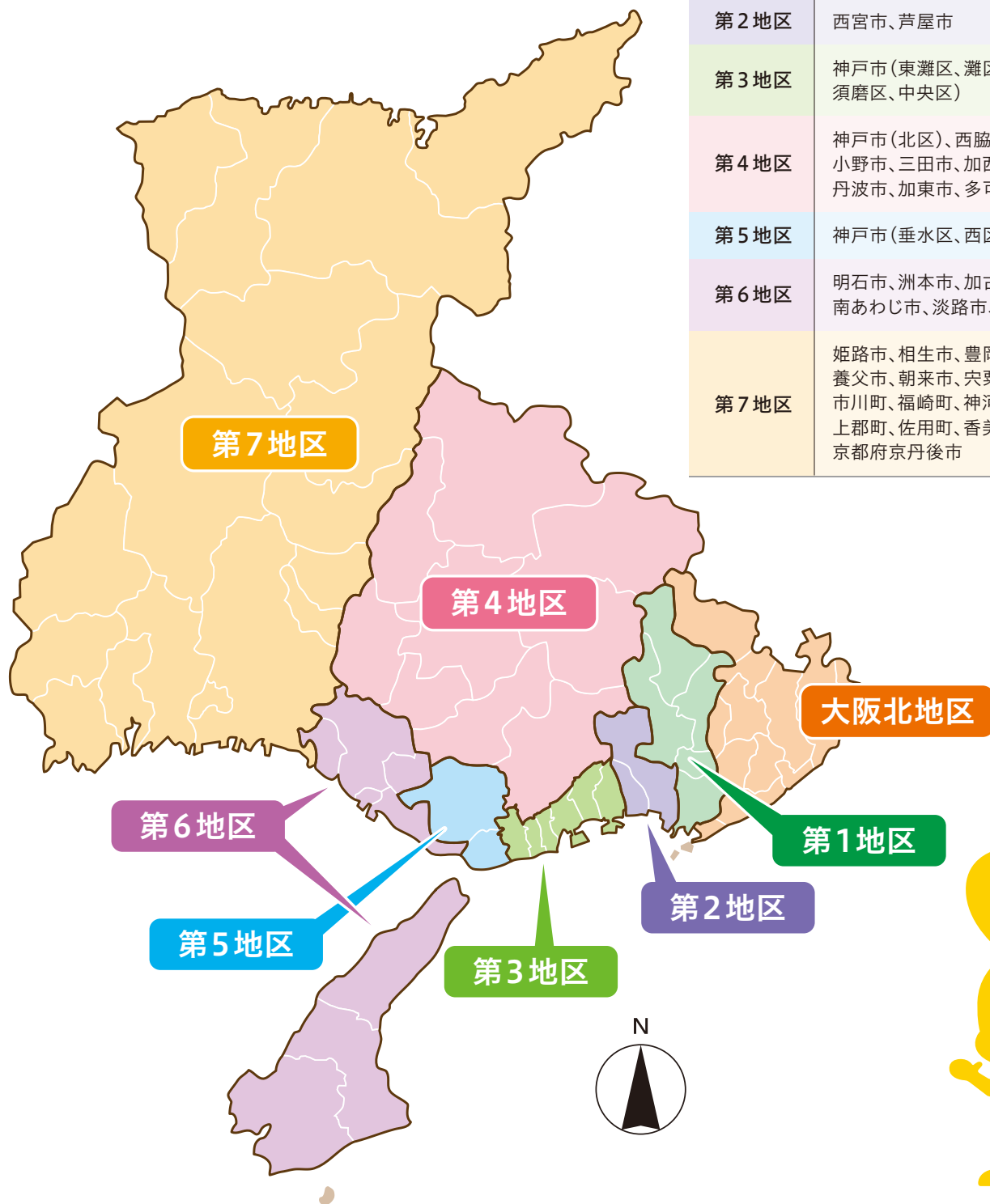


8つの地区について

コープこうべでは、活動エリアを8つに区分し、
エリアごとに地区本部を設置しています。
各地区本部は、行政や地域団体との連携・協力を強め、
地域のニーズをきめ細かく把握し、
活動・事業を推進しています。

地区別 活動エリア

大阪北地区	大阪市(西淀川区、東淀川区、淀川区)、 豊中市、池田市、吹田市、高槻市、 茨木市、箕面市、摂津市、島本町、 豊能町、能勢町
第1地区	尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、 猪名川町
第2地区	西宮市、芦屋市
第3地区	神戸市(東灘区、灘区、兵庫区、長田区、 須磨区、中央区)
第4地区	神戸市(北区)、西脇市、三木市、 小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、 丹波市、加東市、多可町
第5地区	神戸市(垂水区、西区)
第6地区	明石市、洲本市、加古川市、高砂市、 南あわじ市、淡路市、稲美町、播磨町
第7地区	姫路市、相生市、豊岡市、赤穂市、 養父市、朝来市、宍粟市、たつの市、 市川町、福崎町、神河町、太子町、 上郡町、佐用町、香美町、新温泉町、 京都府京丹後市



コープこうべ概要

(2025年3月31日現在)

- 名称 生活協同組合コープこうべ
- 設立 1921年(大正10年)
- 所在地 〒658-8555
兵庫県神戸市東灘区住吉本町
1丁目3番19号
- 出資金 357.4億円
- 供給高 2458.0億円
- 組合員数 171万2578人
- 世帯加入率 47.8%
※活動区域の世帯数に占める組合員数の割合
- 活動区域 兵庫県全域・京都府京丹後市、
大阪府北部(大阪市淀川3区、
豊中市、池田市、吹田市、高槻市、
茨木市、箕面市、摂津市、島本町、
豊能町、能勢町)
- 事業内容 宅配や店舗で食品を中心とした
商品の供給事業を実施。くらしに
関するさまざまな領域の事業活
動を展開し、組合員や地域の皆さ
んと一緒に良い暮らし、社会
の実現に取り組む
- 職員数 9234人
- 事業所 住吉事務所／1カ所
地区本部／8カ所
店舗／133店舗
協同購入センター／22事業所

アンケートのお願い

今後の報告書づくりの参考に
させていただきますので、
皆さまのご意見・ご要望を
お寄せください。右上のQRコード®を
読み取って、入力をお願いします。



◀ ホームページ
<https://www.kobe.coop.or.jp>



Instagram ▶
<https://www.instagram.com/coopkobekoho/>



コープこうべグループの紹介



(株)コープムービング

- 貨物運送事業
- 折込チラシセット業務
- 物流センター構内作業
- 福祉用具レンタル業務
- 地域担当業務 など



(株)コープフーズ

- すし、惣菜類、弁当の製造販売
- 「まいくる」・中学校給食などの給食事業
- インストアペカリー「小麦の森」の運営事業



(株)協同食品センター

- 農産品・水産品・畜産品などの加工、盛り付け、包装 など



(株)コープエイシス

- 各種保険
- 収納代行



阪神友愛食品(株)

- リサイクルに関する業務
- 知的障がい者の職業訓練
- 食品の包装業務 など



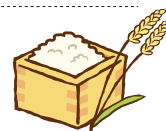
コープ住宅(株)

- 増改築リフォームの企画・設計・施工・アフター管理 など



(株)コープライスセンター

- 精米、加工業 など



(株)コープ環境サービス

- 施設の清掃・警備・保守管理
- 店舗検収業務
- ホームサービス事業
- 再生可能エネルギーを利用した発電事業 など



(株)コープベーカリー

- 「コープこうべ六甲アイランド食品工場」の製造部門、管理部門受託事業
- ※2025年3月の食品工場稼働終了に伴い、事業を終了



(株)ゆうあいサポート

- リサイクルに関する業務
- 施設内の清掃業務



(株)コープエコファーム

- 農産物生産・販売事業
- 農業体験学習事業
- 貸農園事業
- 太陽光発電事業



コープこうべ コミュニケーションレポート2025

編集・発行/生活協同組合コープこうべ 広報室

2025年6月発行